

消防の広域化はどう進めるのか

協議会で原案を策定、協議して行く

質問 消防の広域化はどう進んでいるか。その際現在の装備はプールするのか。

人員の異動はどの程度になるか。広域化して、職員の士気に影響はないか。

この中で、県内を2つのブロックにする案を推進することになりました。

これを受け、中南信地区では、任意協議会の設立の準備段階に入っています。

質問されたようなことから、この協議会で、原案を策定するなかで協議をして行くことになりそうです。今、将来ビジョンの作成中です。

答弁 国が平成18年度に、「市町村消防広域化に関する基本指針」を策定し、県ではこれに基づき「長野県消防広域化推進検討委員会」を設置して、広域化の方法を策定しました。

なお、その参考とするために、平成19年7月に職員からアンケートを集めました。これによると、「処遇や通勤に不安」という結果がでています。

○その他の質問事項

- ・小中学校の環境整備
- ・下水道施設の改良

について



平出英夫 議員



町内55箇所に設置されている下水道圧送ポンプ

職業訓練校の通学補助、 病時病後保育の具体化を 9月議会で、新たな 雇用政策を提示する

質問 町民の所得増進を図るため、職業訓練補助などの町独自の雇用政策また、病時病後保育など、働きやすい環境等インフラ整備が急務であると思われるがどうか。

答弁 観光振興、製造業の誘致など、県と一体となった取り組みを継続していきます。

農業においては、農地の保全や農業の省力化にもつながる共同作業や機械導入に支援をして行く独自の施策に取り組んでいます。

人材育成・職業支援を含めた新たな雇用に関する方策を9月議会に提出して、皆さんのお考えもお聞きます。



小池久長 議員

病時病後保育については、既に設置している茅野市の施設について、富士見の人でも登録すれば利用できるということで利用したときに町で補助するようなことができないかを含め、昨年の予算要求の際に、検討しました。

この問題はさらに継続して検討します。